



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 88 号

2011.5.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

おしらせ

- ー開館について
- ー2011年度の観察会日程の訂正
- ースタッフ紹介

活動報告

- ー霧ヶ谷湿原の整備
- ー山焼き後の雲月山植物観察会
- ーカスミサンショウウオの産卵調査

観察会案内

- ー大瀆山の春植物観察会
- ーブナ林の野鳥観察会

お し ら せ

● 開館しました

高原の自然館は4月25日より開館しました。今シーズンも自然の窓口になるよう、スタッフ一同みなさまのお越しをお待ちしています。よろしくおねがいします。

● 2011年度の観察会日程の訂正

苅尾電波塔第87号でお知らせした観察会の日程に誤りがありました。お詫びして訂正します。

- ・ブナ林の野鳥観察会
【誤】5月23日→【正】5月22日
- ・カワシンジュガイの観察会
【誤】8月1日→【正】7月31日
- ・サツキマス保全の試み
【誤】10月11日→【正】10月10日
- ・早春のトレッキング
【誤】3月11日→【正】3月18日

※日程は変更になる場合がありますので、毎回の苅尾電波塔にご注意ください。

● スタッフ紹介

2011年度の高原の自然館のスタッフを紹介します。今年度は3名でのスタッフ体制となりました。自然に関する疑問や質問などありましたら、お気軽に声をおかけ下さい。自然館のカウンターにてお待ちしております。

学芸員：白川勝信（北広島町教育委員会）
受付事務：有光真教（北広島町教育委員会）
河野弥生（NPO 法人西中国山地自然史研究会）

観 察 会 報 告

●霧ヶ谷湿原の整備

開催日時 :2011 年 4 月 23 日 (土) 9:30

八幡湿原自然再生協議会の委員からの呼びかけで、初めて開催された霧ヶ谷湿原の整備に参加しました。お天気が心配されましたが、雨も降らず作業着、長靴の装備で20名の参加者が集まりました。

協議会の和田委員より作業手順をお話いただき、現地で二手にわかれて作業開始です。私が担当したのは、湿原の観察路をふさぐ折れた木々の整備です。うまれてはじめて持つ手ノコにとまどいながら、使い方や木の処理方法のアドバイスをもらい、作業しました。最初は難しかったけれど、使っていくうちにスムーズに木を切ることができる様になり、時間を忘れて作業しました。折れた木がきれいになり、観察路が通れるようになるのがとても嬉しかったです。

もう一方の班は湿原の中のカラコギカエデなどの低木の伐採を行いました。

みんなで力を合わせ、短時間ではありましたが、広い範囲の手入れを行うことができました。

休憩中もこれからの霧ヶ谷湿原のあり方が話題にのぼりました。春を迎え、たくさんの方に訪れて欲しいなとも思いました。

整備や管理を含め、自分たちができることを考えながら、霧ヶ谷湿原をあとにしました。[このやよい]



中越会長よりごあいさつ。



和田委員より、日程や作業手順の説明中。



雪が残る高原の自然館前で記念撮影。作業がんばるぞ～！



霧ヶ谷湿原に到着.



昼食後、委員と参加者で意見交換.



ブルーシートを使って刈った草木を運び出す。
思ったよりもずっしりと重い.



作業はすべて終了。運び出した木の前で記念撮影.



一カ所に木を集める.



作業終了後のあいさつ。みなさんおつかれさまでした！

観 察 会 報 告

●山焼き後の雲月山植物観察会

開催日時:2011年4月24日(日)9:30

講師:大竹邦暁・佐久間智子

二年連続で山焼きが行われなかった雲月山ですが、山焼き後の春植物の観察会は予定通り開催されました。

天気はよいものの、強風が吹く中、17名の参加者が雲月山の駐車場に集合しました。今回の講師は、大竹先生と佐久間先生です。

最初に草原の成り立ちや、草原がなぜ大切なのか、といった内容を大竹先生からお話しいただき、次に佐久間先生からは「広島県における管理履歴の異なる半自然草原の比較」の資料をいただき、調査データをもとに、それぞれの草原の特長や植生のお話しをしていただきました。雲月山が多様性に富んでいる貴重な場所だということを知り、登山を開始しました。

観察ポイントまでは、強風に注意しながら歩きました。ヤマヤナギの芽、オオバヤシヤブシの花粉、トキワイカリソウの赤い葉、カラマツの芽吹き、アセビのつぼみなどをじっくり観察しました。登山道沿いに咲いていたショウジョウバカマが目を楽しませてくれました。

途中に見える景色の中では、たたら製鉄が行われていた跡や牛が放牧されている場所の牛道、山焼きを行っている場所とそうでない場所の違いを説明していただきながら歩きました。

参加者の中からも、15年前の山焼きの様子や50年前の草原の様子など、地元の方ならではの貴重なお話しを聞くことができました。

雲月山の頂上では、強風も弱まり気持ちのよいお弁当タイムをゆっくりと過ごしました。ここでも山菜の食べ方、マムシの捕まえ方など芸北ならではのお話しを聞かせてもらいました。

戻りは下の駐車場を目指して下山しました。昨年完成した登山道が一部雪のため崩れており、少しでも早い復旧が望まれます。

途中緑色が濃い場所があり、そこへ行ってみることにしました。エゾノギシギシ、コスズメノカタビラなど本来なら自生していない植物が多くありました。放牧された牛によって種子が運ばれ生育しているとのことでした。草原の管理をどうしていくか?ということを考えさせ

られる場所でもありました。

最後は道路を歩き、上の駐車場まで帰ります。ニオイタチツボスミレがひとつだけ咲いており、その姿を見ることができたのがとても嬉しかったです。

いつもの年より咲いている花が少なかったり、山焼き後の植物の姿をみるのが出来ませんが、草原の重要性を十分に感じ、冬から春への移ろう季節を楽しめた観察会でした。
[このやよい]



ヤマヤナギの説明をする佐久間先生.



山の中腹に残るたたら跡について説明する大竹先生.



登山道沿いに可憐に咲くショウジョウバカマ。個体で色の違いがあるのがおもしろい。



谷筋にところどころある残雪。



雲月山を下る。帰り道が早いのはなぜだろう？



日当たりがよい場所のためか、ひとつだけ咲いていたニオイタチツボスミ。

【みなさんの印象に残った物】

「牛の休む場所が他と植物が違うことなど、初めて知りました。夏にしか来たことがなかったので、驚きました。」「牛が運んだ地元の植物群」「いろいろな話を聞いてよかった。」「早春の花の観察、季節外れの残雪が印象的でした。」「車道を抜けて山に入ったときの寒さと風の強さ。まだまだ春には遠い感じがしたこと。」「アカマツとクロマツ」「地の人のお話。」「牛のふんの中の様子。植生が大きくかわるのを知った。」「4/24にしては寒く、例年よりは2週間くらい遅れている。」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「説明がとても丁寧で、わかりやすかったです。地元の方の話が聞いてとてもよかったです。」「雲月の文化史が講師の方、地元の方の話で勉強になった。」「楽しいひとときをありがとうございました。」「好天に恵まれ、快適な観察会でした。」「寒く風が強かったですが、お弁当を食べる頃は大変気持ちよく観察会ができて、よいお話を地元の人、先生方に聞いてよかったです。」「たのしかった。」「先生方だけでなく、いろいろな話の聞けるのでよかった。」「風が強かったけど、楽しかった。」「今年の雪の多さにおどろき。」

観 察 会 報 告

●カスミサンショウウオの産卵調査

開催日時 : 2011 年 4 月 29 日 (金) 9:30

講師 : 内藤 順一

今年も霧ヶ谷湿原でカスミサンショウウオの産卵調査をするため、14名の参加者が高原の自然館に集まりました。最初に講師の内藤先生よりカスミサンショウウオの生態を中心に、広島県や北広島町で生息している両生類のお話がありました。サンショウウオ類の分布や特長をしっかりと覚えて、現地へ移動です。現地では3班に分かれて調査します。調査内容は地点、両生類の種名、状態、卵塊数、卵数の確認です。地点の記録はGPSで行います。私の班では道路と主水路の間が受け持ちの場所だったので、ゆっくりと歩きながら導水路の中を見て、卵塊を探します。早速ヤマアカガエルの卵塊を見つけ、記録しました。すでにオタマジヤクシが出ている卵塊やヤマアカガエル、ニホンアカガエルの成体も見つけました。観察するうちに、流れがほとんどなく水たまりの端のようなところに卵塊がたくさんあることに気づきました。道路沿いの水路でカスミサンショウウオの成体と卵のうを見つめることができました。山際の場合を担当した班も、カスミサンショウウオの成体や卵のうをたくさん見つけ、卵の数をしっかりと調査していました。

最後のまとめでは、各班の状況を発表したり、ヤマアカガエルとニホンアカガエルの違いを内藤先生から教えていただきました。

フィールドに出るの調査は、実際に生息環境を見ることができ、水の冷たさを感じたり、卵の発生をじっくりと観察することができます。

カスミサンショウウオをはじめ、湿地に生息する両生類が増えていることは、自然再生事業の工事によってできた霧ヶ谷湿原が以前の湿原へと回復している目安となります。

多様な生物が息づく霧ヶ谷湿原であるよう、これからも調査を継続し、見守りたいと感じました。[このやよい]



高原の自然館内でまずはお勉強。



調査開始。こちらは1班の様子。



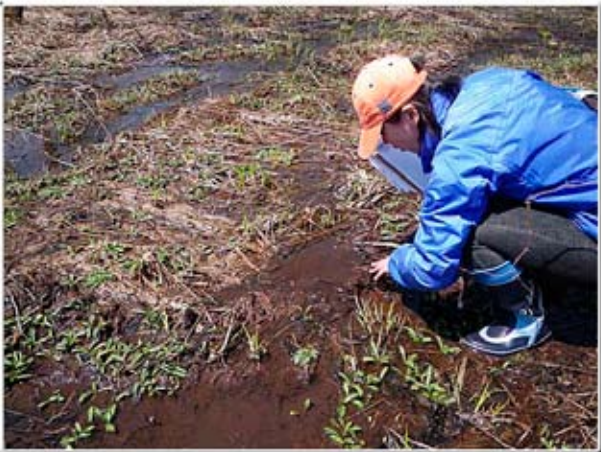
卵を守っていたオスの成体。



カスミサンショウウオの卵のう。



ヤマアカガエルとニホンアカガエルの違いを教えてください。あごの下の模様がなかったのでこの個体はニホンアカガエル。



3班の様子。ヤマアカガエルの卵塊を確認中。

【みなさんの印象に残った物】

「成体のオスを確認できたこと。場所によって黄条，地衣状斑の違いがあること。」「例年より水が冷たかった。」「卵塊がどういう状態であるかがわかったこと。」「カスミサンショウウオの卵のうがたくさん見られたこと。」「発生段階の違うカスミサンショウウオの卵」「カエル」「初めてカスミサンショウウオの卵のうを見れて，手で触れたこと。(2)」「カスミサンショウウオの成体。雄2体。」「カスミサンショウウオの卵のうと水温の冷たさ。」「カスミサンショウウオ，卵，ともに初めて見れたこと。(2)」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「たくさんの卵塊が見れてよかった。」「もう少し広い範囲で探せばよかった。」「実際に発見できなかったのは残念でしたが，調査は楽しくできました。」「お天気がよく，春早くでないと歩けないところに入って観察できたことはよかったです。内藤先生のお話もわかりやすくよかったです。」「例年に比べ水温が低い感じがしました。」「カエルをさわったのが，たのしかった。」「水温も低く，最初は全然みつからず・・・自然の生き物の不思議を知らされました。」「今年は寒いせいかカスミサンショウウオの卵がまだのう胚期だった。」「湿原がどんどんいい感じになっていてうれしいです。」「少しずつ霧ヶ谷湿原の姿が戻ってきているのだと感じました。」



2班の調査風景。小学生でも大丈夫！

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● 大潰山の春植物観察会

開催日時：2011年5月14日(土) 9:30
集合場所：大佐スキー場駐車場
講師：暮町昌保・佐久間智子
準備：基本セット、弁当
定員数：30名
参加費：一般=300円 / 賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

スミレやツツジの仲間など春の植物を観察しましょう。里山の植物にも出会えます。新緑の中、気持ちのよい空気を感じながらゆっくりと歩きましょう。下りが急なところがあるので、滑りにくい靴でおこしてください。



● ブナ林の野鳥観察会

開催日時：2011年5月22日(日) 5:00
集合場所：雪霊水
講師：上野吉雄
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：一般=300円 / 賛助会員=100円
正会員・中学生以下=無料

早朝のブナ林で野鳥を観察します。一度は出会ってみたいアカショウビンやクロツグミ、オオルリの姿を「見る」だけでなく、生息環境や生態の解説もお楽しみのひとつです。5月とはいえ早朝は冷え込みますので、あたたかい服装でお越しください。



ようやく！やっと！！芸北でもサクラの便りが届き始めました。「かりおの雪が消えたら八幡に春が来る」と聞くので毎日見っていますが、まだ消えそうにありません。その苅尾山にあがってみると、車道沿いにはオオカメノキの花が、足下にはミヤマカタバミがかわいい花を咲かせていました。カラ類の鳴き声も聞こえ、「シーズンがはじまったんだなあ」と実感してうれしくなりました。(このやよい)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info